加古川市立志方小学校

令和８年度全国学力・学習状況調査結果について

Ⅰ．学力状況調査結果の分析

【国語】

本校の児童は、文章の種類や特徴を理解しながら読み進める力や、自分の経験と結び付けて考えをまとめる力が育ってきています。また、漢字の使い方や語句の理解など、基礎的な知識の定着も見られました。一方で、文章の構成を捉えたり、引用した情報と自分の考えを結び付けて書いたりする場面で、課題が見られました。

今後は、児童が文章の内容をより深く理解し、自分の考えを根拠と結び付けて表現できるようにするための学習活動を充実させていきます。そのためにまず、文章を読んだ後に、出来事の流れや話の展開を時系列で整理する活動を充実させます。文章の構造を「はじめ・中・終わり」や「問題・理由・結論」などの形で図式化し、視覚的に捉えることで、内容のつながりを理解しやすくします。また、接続語に注目して文章の関係性を読み取る練習を重ねることで、文章の流れを意識した読解力を育てていきます。さらに、引用を用いたときの書き方を定着させるための指導を強化します。具体的には、引用部分とかぎかっこを正しく使う練習を重ね、引用した内容と自分の考えを混同しないように色分けや欄分けを行いながら書く活動を取り入れます。また、引用→その理由→自分の考えという順序で書くことを定着できるよう、ペアで文章を読み合い「引用が適切に使われているか」「根拠と考えが区別されているか」を確認し合う活動も行っていきます。

【算数】

本校の児童は、図形の基本的な特徴や性質を理解する力や、計算の基礎技能が着実に身についています。一方で、体積の意味を捉える場面や、割合・単位量の考え方を使う場面で課題が見られました。

算数では、数量や図形の意味を理解し、それらを活用して考える力を育てるための学習を進めていきます。例えば、体積については、立方体を組み立てたり分解したりする操作活動を通して、「体積＝１㎤の集まり」として捉える学習を充実させます。実際にブロックを使って直方体を作り、どの面が何個の立方体でできているかを確かめる活動を取り入れることで、公式だけに頼らず、体積の意味を理解する力を育てていきます。また、割合や単位量については、基準量と比較量を色分けして図示したり、帯グラフを使って割合を視覚化したりする活動を充実させます。買い物や料理など、身近な場面に置き換えて考える課題を取り入れ、割合の意味を実感を伴って理解できるようにします。「１あたり量」を使って混み具合や速さを求める学習では、図や表を使って数量の関係を整理し、式の意味を理解しながら問題に取り組む力を育てます。さらに、変化する数量の関係を表やグラフで整理し、「どうしてそうなるのか」を友だちに説明する活動を通して、考え方を言葉で表す力を高めていきます。自分の考えを他者に伝える経験を積むことで、数量の関係を筋道立てて理解する力の育成につなげていきます。

Ⅱ．学習状況調査（児童質問紙）から

今年度の児童質問紙の結果を分析したところ、子どもたちの生活面における姿として、次の２点が明らかになりました。

○自己肯定感と他者への思いやりが育っていること（よい点）

「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童が多く、前向きに自分を受け止めようとする姿が見られました。また、「人が困っているときは進んで助けている」と回答した児童も多く、周囲の人を思いやる気持ちが育っていることがうかがえます。こうした姿は、縦割り班活動をはじめとした学校教育全体での協働的な学びや異学年交流、さらに地域の皆様との温かな関わりを通して培われてきたものであり、子どもたちの心の成長を支える大切な基盤となっています。学校としても、この良さを今後も大切に育んでいきます。

●スマートフォン等の利用時間が長く、生活リズムが整っていないこと（課題）

本校の児童質問紙では、「平日に SNS や動画視聴を長時間行っている」児童ほど、就寝時刻が不規則になりやすく、学習への集中が続きにくいといった生活面の課題が見られました。

文部科学省の「令和８年度全国学力学習状況調査の結果」からも、『SNS や動画視聴等の利用時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが低い傾向』（下記資料）と示されており、本校でも同様の傾向が確認できることから、生活習慣の改善が学習面にも良い影響を与えると考えられます。学校としても、健やかな生活リズムづくりに向けて、家庭と連携しながら働きかけていきます。

今後も、児童一人一人の学びを丁寧に支えながら、学力の向上と学びの充実に向けて取り組んでまいります。引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申しあげます。

（文部科学省・国立教育政策研究所
『令和８年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）のポイント』より抜粋）

